

## 「ウラリカ18号」投稿規定

1. 「ウラリカ 18号」への論文投稿の締め切りは、2020年12月31日とする。
2. 投稿論文の採否は、査読を経て、編集委員会が決定し、編集委員長から著者に連絡する。改稿が必要と判断して、再提出を求められることがある。
3. 「ウラリカ 18号」は、紙メディアを用いた印刷版と、**Portable Document Format** (以下 PDF) による電子文書の形態で刊行する。投稿論文の著者は、投稿の時点で、自分の論文が、「ウラリカ 18号」の発行と同時に、日本ウラル学会によって PDF 文書として電子的に複製・配布されることを承諾したものとみなす。
4. 原稿の形態：A4判に横書きで、ワープロ等で清書したものとする。電子投稿の場合は、フォントを埋め込んだ PDF 文書、または、広く流布しているワープロソフト (MS Word など) で作成した文書であることが望ましい。採用の場合、原稿を、編集可能な電子ファイルで提出する。書式はウラリカスタイルシートに従い、1 ページ 29 行とする。
5. 使用言語：日本で刊行される学術誌であること、および、ウラル研究の国際的な慣習を考慮し、本文の言語は、日本語、英語、フィンランド語、ハンガリー語、エストニア語、ドイツ語、ロシア語のいずれかとする。引用部分や参考文献には、原則として言語の制限を設けない。ただし、必要な場合には、本文の言語による翻訳を添えて、理解を容易にするのが望ましい。
6. 原稿の長さは、日本語の場合、8000 字～16000 字 (400 字×40 枚) を目安とする。欧文の場合、言語によって単語の平均的な長さ(文字数)が異なるため一様には指定しにくい。英語の場合、2000 語～4000 語を目安とする。
7. 原稿には、著者名、所属機関名、連絡先として公開する電子メールのアドレスを書く。
  - [1] 著者名は、原則として、使用言語の文字体系に転写する。原語名の付記が必要な場合は、注を設けて書く。
  - [2] 所属機関名は、原則として、使用言語に翻訳する。原語名の付記が必要な場合は、注を設けて書く。大学や研究機関に所属する研究者等は、その機関名(〇〇大学、〇〇研究所、など)だけ書き、大学院生の場合は、学校名に「大学院」、**Graduate School** 等を添える。
  - [3] 電子メール以外の連絡先は、原稿中には書かない。ただし、編集委員会には、連絡用として氏名、郵便用の住所、電子メールアドレス(公開するものと異なる場合)を知らせる。
8. 各論文の冒頭の要旨は、執筆言語で書き、3～5 語のキーワードを添える。日本語の要旨のタイトルは「要旨」、英語の要旨のタイトルは **Abstract** とする。日本語の要旨は 200～400 字程度、英語の要旨は 50～100 語程度とする。英語キーワードの見出しは、**Key words** ではなく、**Keywords** と 1 語に綴る。

9. 各論文の末尾(参考文献の後)に、英語以外の言語で執筆された論文には英語で、英語で執筆された論文には日本語で要旨を書く。この要旨には、原タイトルを、それぞれ英語ないし日本語に翻訳したタイトルをつける。
10. 組版の困難を減らすため、使用文字フォントは Unicode フォントに限定する。音声記号等の特殊文字や記号の使用は必要最小限にとどめ、また、一般に流布していない特殊なフォントの使用は避ける。漢字かな、ラテン文字、キリル文字以外の文字は、原則としてラテン文字に転写する。なお、どうしても特殊なフォントの使用が避けられない場合は、事前に問い合わせる。
11. 組版の困難を減らすため、注は、論文末、参考文献の前に置き、脚注としない。また、ワープロソフトの脚注のリンク機能は用いない。
12. 組版の困難を減らすため、表、グラフなどの図版を本文に組み込む場合には、図版の左右に本文を回り込ませない。
13. 本文の中で小見出しを付ける場合は、**1., 2., 3., ...** のようにピリオド付きの番号をつけ、さらに下位見出しを付ける場合は、**1.1., 1.2., 1.3., ...** のようにし、以下これに準じる。
14. 日本語の句読点は、「,」と「。」とする。
15. 欧文の論文では、要旨、本文とも、段落の頭にインデントを 5mm 程度とる。
16. 原稿には、ページ番号(ノンブル)を入れない。
17. 日本語の参考文献の表記
  - 1} 単行本  
西村京太郎 2007 『南紀白浜殺人事件』 角川書店
  - 2} 論文集の中の論文  
宮部みゆき 1997 「凍る月」 宮部みゆき 『初ものがたり』 PHP 研究所, pp. 181-223.
  - 3} 逐次刊行物中の論文  
野尻知里 2008 「人工心臓」 — 『学士会会報』 No.870, pp.96-103.
18. 欧文の参考文献の表記
  - 1} 単行本  
Mäeväli, Sulev 1981. *Historical and Architectural Monuments in Tallinn*. Tallinn: Periodika.
  - 2} 論文集の中の論文  
Kreutzwald, Fr. R. 1985. The Twelve Daughters. In: Kreutzwald, Fr. R., *Old Estonian Fairy Tales*. Tallinn: Periodika, pp.48-52.
  - 3} 逐次刊行物中の論文  
Kähkönen, Sirpa 2008. No place to go. *Books from Finland* 1/2008, pp.19-28.
19. 論文中で参考文献に言及するときは、著者の姓と発表年を用いて、野尻(2008)、Kreutzwald(1985) のように書く。ページを明記する必要がある場合は、野尻(2008: 97)、Kreutzwald (1985: 48-49) のように書く。

20. 著者による校正は、掲載用の原稿を電子ファイルとして提出する際に終わっていると考  
え、特殊な文字や図版の確認などの目的で、著者による校正が必要と編集委員会が判断  
する場合を除き、原則として行わない。
21. 母語以外の言語で執筆した論文については、当該言語の母語話者に依頼するなどして、  
文法や用語法等に問題がないことをチェックした上で投稿することが望ましい。
22. 不明な点については、学会のホームページにある問い合わせ用のメールアドレスを通じ  
て、適宜、編集委員会に問い合わせられたい。

日本ウラル学会  
「ウラリカ」編集委員会